

平成28年3月

## 宮谷幸造 学位論文審査要旨

主査 辻谷俊一  
副主査 梅北善久  
同 齊藤博昭

### 主論文

Increased numbers of IgG4-positive cells in tumors are associated with the progression of gastric cancer

(腫瘍におけるIgG4陽性細胞数の増加は胃癌の進展に関連している)

(著者：宮谷幸造、齊藤博昭、村上裕樹、渡邊浄司、黒田博彦、松永知之、福本陽二、尾崎知博、中山祐二、梅北善久、池口正英)

平成28年 Virchows Archiv 掲載予定

### 参考論文

1. Tumor infiltration pattern into the surrounding tissue has prognostic significance in advanced gastric cancer

(周囲組織への腫瘍の浸潤様式は進行胃癌において予後予測因子となる)

(著者：齊藤博昭、宮谷幸造、高屋誠吾、黒田博彦、松永知之、福本陽二、尾崎知博、池口正英)

平成27年 Virchows Archiv 467巻 519頁～523頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は胃癌組織と胃癌患者血清を用いて、IgG4発現の有無と血清IgG4値を測定し、臨床病理学的因子および予後との比較から、胃癌におけるIgG4の臨床学的意義を検討したものである。その結果、IgG4発現は胃癌の進行と関係があり、胃癌の予後予測因子として有用であることを述べ、また、胃癌に対する治療としてIgG4がターゲットとなる可能性も示している。以上のことから本論文の内容は、明らかに学術水準を高めたものと認める。